



令和 7 年（2025 年）1 月 27 日 公表
令和 6 年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ブリ

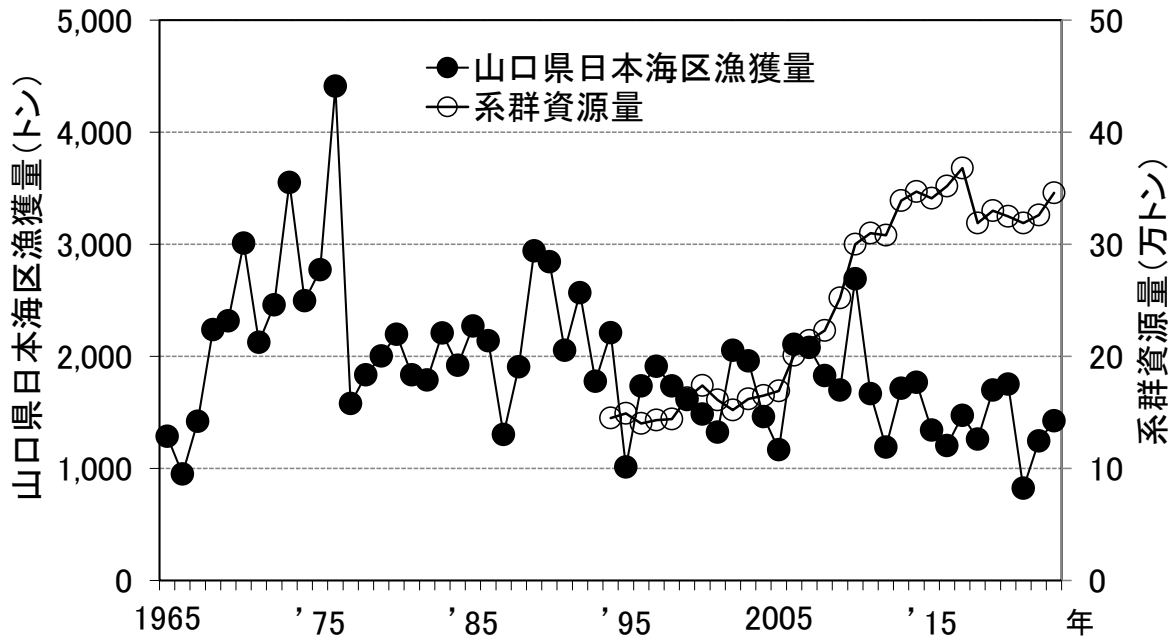


図 山口県日本海区及のぶり類漁獲量（漁業・養殖業生産統計年報）
及びブリ資源量（（国研）水産研究・教育機構資源評価報告書）の
推移

【漁業】ブリは主に定置網、釣りおよび刺網で漁獲される。夏～秋には主にヤズ（当歳魚）、冬～春には主にブリ（3歳魚以上）・メジ（1～2歳魚）が漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、1965年以降変動しながら増加し、1976年に最高の4,412トン記録した。しかし、1977年に1,578トンに急減して以降は、約1,000トンから3,000トンの範囲で増減していたが、2021年は822トンと過去最低となった。その後はやや増加し、2023年は1,423トンであった。

【資源状態】資源量は1994年以降2008年まで14.1万～22.4万トンで推移し、以降増加傾向となり2017年に過去最高の36.6万トンとなった。2018年に減少し32.9万トンとなった後は、34.3万～36.4万トンで推移し、2023年には34.6万トンとなった。

2023年の親魚量（SB）は最大持続生産量（MSY）を実現する親魚量（SB_{msy}：目標管理基準値）を下回った。また、2023年の漁獲圧（F）はMSYを実現する漁獲圧（F_{msy}）を上回った。親魚量の動向は増加と判断された。

2023 年漁獲量 (万トン)	MSY (万トン)	2023 年親魚量 (万トン)	目標管理基準値 (万トン)	限界管理基準値 (万トン)	禁漁水準 (万トン)
11.4	13.0	20.5	22.2	6.9	0.9

*暫定値